



## 研究主題

外国語を通して、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

## 目指す児童像（低学年ブロック）

外国語に触れ、外国語でコミュニケーションに慣れ親しもうとする児童

第4回 研究授業報告 6月17日（木）第1学年 Animals

授業者：T1 堀金 恋 ALT：祁答院 恵子  
講師：玉川大学教職大学院 名誉教授 佐藤 久美子先生

### 【本時のねらい】

動物に関する英語の表現を使い、すすんで交流する。

### 【授業のポイント】

1年生は初めての英語活動であるため、より楽しく活動できるように第1時と第2時では、モジュールで絵本や歌、チャンツ等の活動を積み重ね、外国語に慣れ親しむことを中心に学習を進めてきた。その中で、児童は好きな動物を、リズムに合わせて英語で練習することで、多くの表現を覚えることができた。単元のゴールである第3時に好きな動物を集めて動物園を作ることを設定することで、「多くの動物を集めたい。」「好きな動物をもらいたい。」という児童の気持ちが高まり、意欲的に活動に取り組むことができた。その中で、児童が好み、かつ覚えやすい動物の単語を精選することで子どもたちは多くの表現を覚えることができた。

### 【授業の様子】



### 【児童の様子】

- リズムに乗って、10種類の動物の単語を正しく英語で表現することができていた。
- 自分の動物園を作るために、積極的に英語を使って交流し、動物を集めることができていた。

### 【講師の佐藤先生より】

低学年に10種類の単語を覚えさせることは通常では困難だが、多くの児童が正確に単語を覚えることができていた。低学年でもクラスルームイングリッシュとジェスチャーを用いて簡単な表現に慣れていくことで、中学年から外国語活動へ円滑に移行することができる。教師の言ったことを繰り返すだけでなく、人前で発表するなど内容を広げていけるような活動を考えて取り組むことで、高学年の外国語科で自発的に英語を話すことができるようになる。

様々な御指導をいただきました。今回の研究授業を生かして、より一層、授業力向上に努めていきます。

